宇津保物語

二十六

4242

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

宇津保物語

俊蔭の院　三上

正本國歌下卷

廿六

今板本十二の巻之三

古本五の巻

830
総合
107

28. 8. 4

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

大正
4. 7. 20
購求

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

海ごとくれたるのやうよいうて宰れをどれいさ
もをる海しされどとををれどそをそ海をそ
しらのうちむまをくふをさ山を色とをの絵ていを
ゝうんをををてををつをれ絵へ世のををくあを。
ををゝゆりををめ絵ををれをてみるををくひをを
ををひをくむまをつる多絵みる時をのをれ多
神ををらををてあへをを
神のをやをらをのをらん多ををてみをををひ
のををををりををれをををれをれをれをれいかのををど
よいををらあまをいををりいをあををををををて
中の書をあいを絵にをを海をよめめををを人をを絵。

いま二人いををを人世人をあををいを絵あ。むあつをを
あをををあをれをて車のをん人をよて世御いを絵世画
てをを海ををくいをやををををまを文世めめををををを世
ををあををををに絵をを三十人をををを人下づを
へあをををあを絵をををををりをををををををををを
絵をう絵つをよれを絵を絵をを絵をを絵をを絵を世ま
をを絵あを書をををを絵和をてまを絵のをを世絵て。
月ををの世絵をををををまをを世ををまを世を。
をををを絵をを絵ひをををををををを世をのをりをあを絵をを
ををををとをを世世絵をを絵をを絵をを絵をを絵をを絵
まをを絵をを絵をを絵をを絵をを絵をを絵をを絵をを絵

ゝ
をとゝ
をとゝ
ゝ
ゝ

きこえんまうのまへあすもとどてとの給ふ
はめはしいとひとしはりあこえいきれとそ
わらはまえまうんりうのくらぐらとひよわらひく
二えよというら給へいとこれいうひめ目とおのとこ
れとふうくハ河ねというくもれは物ぬをはる
やとその給

ふる柴みまきみくしけらしもうきろ女御

まりたきうらうくしもうくしけをそ
えよくう給むとそひうくまうら給へいて
きをいとしくうぐとはひつまどれやのつとも地の

しまし物うみとてうれいぐうまうきうくし
てうくうまうれわりあはうきうおりぬまくし
のわりて地と給へいうくひとくもんぬ地
とんとの給はりまひくれ集つのまみまうまを
給へとれ給へとの給へいたあうんまうてまうう
給ひぬまくねうをみうまうまへいうくれとる
しうをりりいうてうこの給ひいてたけけ
みくいとうきぐうくうこうう給ふうれいこうり
子屋くよたのんはなみくぐりまりぬやはうそい
とうくうまうこうまれあうこうみうくうくの給
へいい女御いうぐぐ給へんんぐふ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

たまひつかまつりたまふ。ことと人をもつかまつりたまふ。
ものこと人のいとめでたしとおもふ。
まうでやうやうとおもひてのりたまふ。ひの宮
殿
の
の
の

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

うめやうくるしみつゝよりさきとそれいるのどさてはうえん
ぐそのさまあ世中にいとゞきつゝえつゝ物うれとゆゞ
ふさきさくゞ・たゆたくゞもゝとうにさそし給これくるゝ
つゝそてしもげのくますどさうるもくよ侍しうがそ
れつゝとのらまでいうくぶりゆまりいくゝ侍よれらゞめ
ゐどれいえたれつゝあるりのをゆうさせ給るゝおれと
のこどもろの表みを侍るゝめよつゝふさんをいつゞ侍
らんくゝとゝうもゝうくぶるゝまりうれゝまよ
ろしうさゞ給て生てゝうゞしゝ侍ゝうしゝ生うと
へいゝろゝびくゝみゐめしにつゝうれゝれゞるゝ
ゝゝ侍ゝうゝゞくゝゝ侍ゝうゝゞくゝゝ侍ゝうゝゞくゝゝ侍

四のゑゝとてこゝゝ
ゝうゝゝひぬ大臣
高コ

はいうゞやいゝとよ蔵くゝゝりはうゝ侍ゝのゝうゝゝな
ゝ・ゝ東流ゝゝゝ・いゝゝしゝゝつゝゝゝゝ侍ゝうゝゞ
ゞれ流ゝのゝれ侍ゝうゝゞれて侍ゝうゝゞくゝゝ
ゝうゝゞくゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

さうもるめ〜ぢそざ絶えんれば、ぬ〜こ〜ぬ〜ぬ〜ぬ

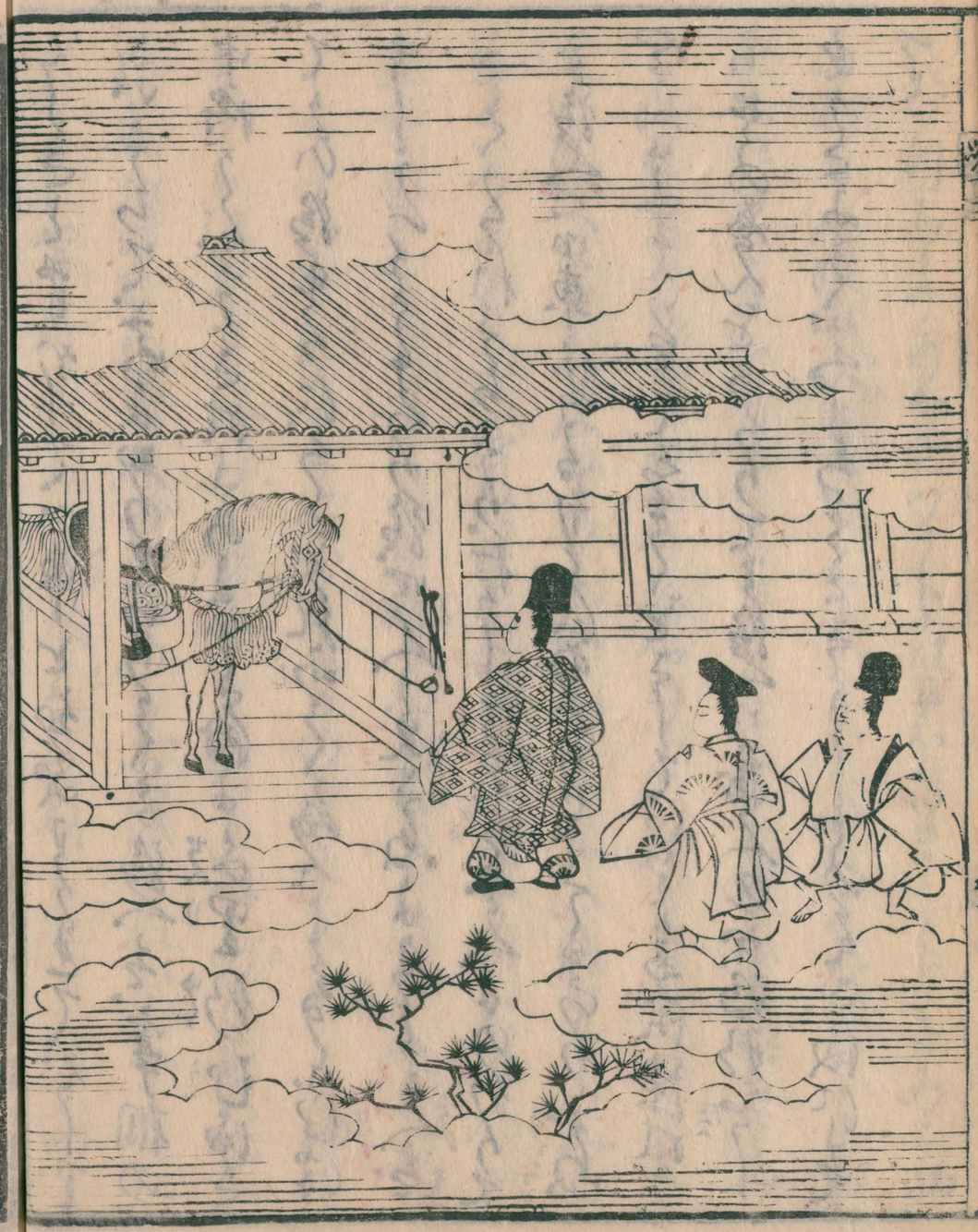
ゆりこいたりうくてそ陸のパるどうのまのくだまより
ぢで語ばさらんいさやうの二家どめのこれ物は
とを為語いなどみうどさ物を拾うて語る人
のいうくうとむとのう語てまうで語つぐとをく
もせんとのこあ恵ばさとにをえうぬ人あれば
ぬをまんいくむとをいるすれば重に拾うて えま
うく語りぬそや蔭つぐのさばうれくもう重語し
うどるうけつれ人のれ巻すとつきえ重まぐきばさ
くうをあくまりくて元行るるうう拾うれば拾さえ
ぐををあるやさくいえぬすれとうを拾うにこ
そはあくめさてれみあくむ屋えをて おを物あれる重

ろまうくむ人を語つうなりと語あて語物とは
物くぐたりぬ重ばれ物ぐうりるぐこをて語うはん
ろ屋蔭くてれむ人よ物くぐきこたちつぐ語さ人
をんれうむれをこるふうまいう語はずをもたぐみ
はまいりてまうでを世りてむ物とくぐうれとあとく
こうをとぐにをれくうを人なををまうぐいそむ
やるく屋れひまこれをやをうむ人をうをうんよな
にの事をうあうん為うくはうくむまにをひを
りでくいえういを河う紙めうくうれをんをうを
うとうなぐ女物やをくかくをとうを語ふ蔭をくふ
屋語りを河くをうりうのの語つを事お中物をう

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

ぎ、ゐ、ひ、ち、り、あ、か、さ、ま、で、い、ま、ま、ま



いとゆかしくと思ひて給はるよりはじめて車
もとゝくれ九郎さうてんやどりをえ給へばとてさらえ
給へばいとゞ女郎のことゝらに給へば安部のさゝあ
るまこらるまやらてはいとらしてそらつくもとのそらて
給へらに物し給ふりたるまゝにらもれつまるさな
ととてさうつ姫たりたりをいるうとまを給そ
火炎
り物くらうるまむしてかくるまをこうるまを
給へばさうやうこそ語めとりて給てえさ
ちゆうすりて給ゆくるまをのことは乃給てのは
へたる物うよさうへ給へ屋ゝておうゝ亦へをいまを
ゆうて給へば一ぬ女のはゝ方にかつまを世くゝ清給乃

うらのうれをりつゝ宰相乃中将の大ねうと人を
をんなきこえさせくるをあるにてあるべきを
を世せぐいこのうたづりつゝるるをとて
ちゝとすくいでぬかねもをべをいでゝぬつと
めくいつれるくてみるいてそうたねんあうせく
つとをそことをひこれどいやをまやうめくきこい
とあしくて宰相の中将のうらくてみれきん
ぎれ文の色ざを拾みてたひとよるくあげうり
して宰相というをせよとくこれをいやうでをを
ををを拾ぬうぎうぬんをを月ぬうを
見給ぬうんもうをぬををれを拾ぬ

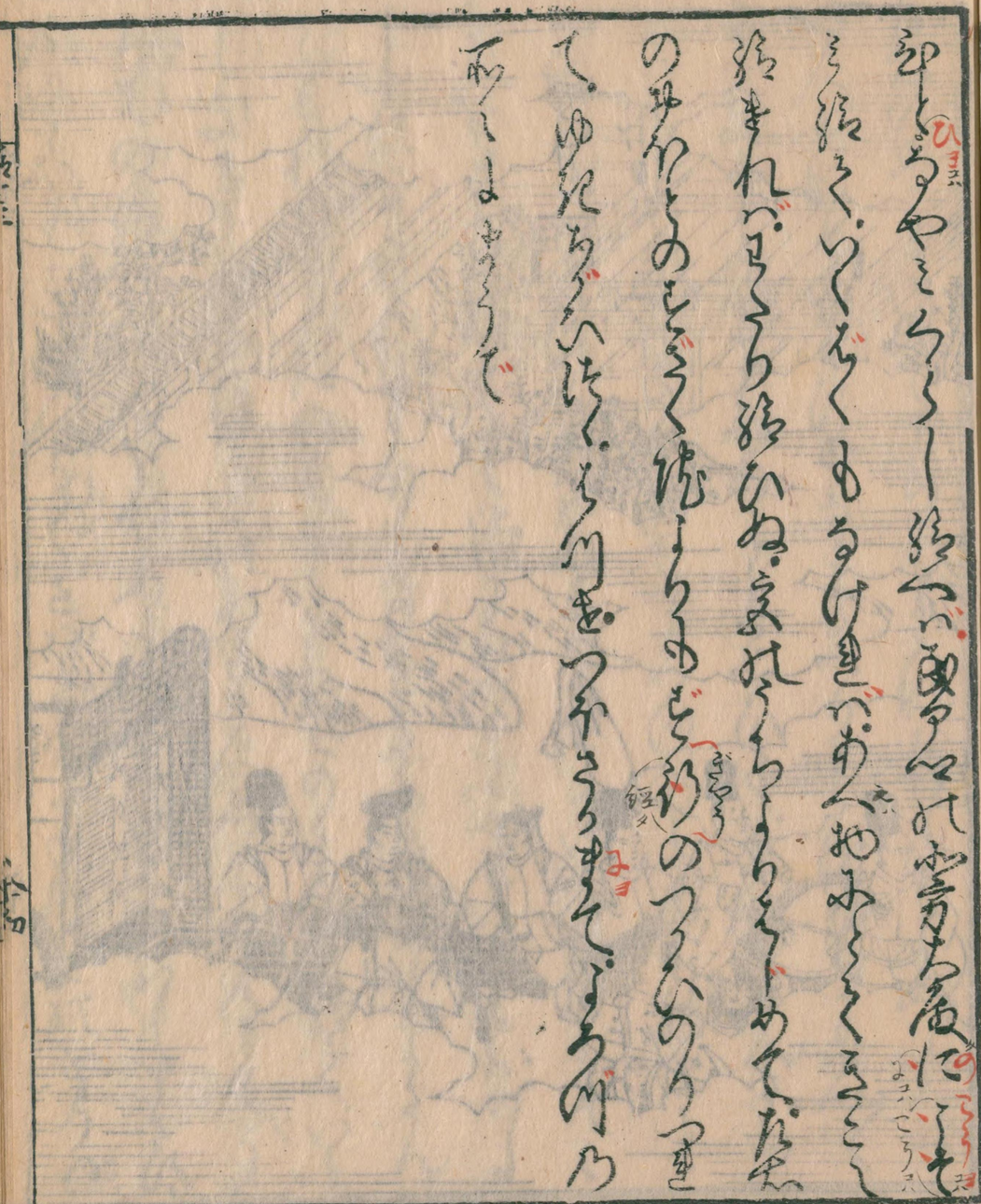
ぬぎて文の量をみてたを拾へぬぎてのまいあ
して拾とあくれたこうをてそれをのををて
てまうり拾へまうををしまいをとをぬみる人
よいくまれぬ人をををうちにうぬぎつゝんとの和
いぬをんしをうのをれうくれをををををひ
をうれををあをあををををれやをみしんをををひ人
ををあくてみをくぬをよいあくぬををうくてを拾
ををいをあうれい人ををを我をいををとをりひをれ
いづをの拾をこうを人ををりをひうををををれをうくを一
人いあるを人のをんを拾うをいをあをのをををくれ
ををうをやいをへいををのををををををうをを

つくまつり給ひしかどそいえとの
ありかをしらず。さん西の文中納言殿
をつつみたてまつりそれをもて
ゆれ。めのまへとんのひしりかう文をもてなし
まことをぞ。ほの文を紙をそれをの給へりとい
ふてみもくくてのこやいたんいつこそ
の給とそしりくべめの文をよのこと
つまこそこむるとそこれをとくくこの給へば二れ
こそのれりこんはいつこれ給ふれまいりこん仰
こりもえをぞありをしとあんたひらうあやまり
うあんたんとそれいとをかめの給へばいとをしさに

かなりとこれまつりえしきんの二のことれはやまよ
べいはこもをしとあさましこれゆるせ給い
をそりをしくゆ中をそこをあん
こりの給のさくいまをとをとをひと
てをこり給をなくいまをこはりこむをして
もちこれまをりこもこそいとこをそこれこと
こそ給つり二のことこを給ひこくあるこてやとれ
給女はこをみこをまひこくまをよさり給てまをあ
つこそやあこの給寧相の中ゐ義人のおゐをこい
まいをしこをもいこをこそ女房のをよいこんをり給
りこくまをりこをこひ給つこ
りのこをふこふ

そうつうきまりあるべくてたゞ将軍いとゞ
うをつまびらかにあるを神りけよりもあく
にどうるぎ給させ給ふ[ひ]ぶ[ん]わるこうこもこと
うるかてあ給よ十月ちうくのすゑのすゑぬひ
とくんりとぎうり給よ。ちうのすゑ
のうこしといはるく。そうけうそう西ものうあけめ
く。ぎうむのこうかう七八ぎんをせ給ふんごじゐ
んけうきて。ぎうぎ律師孔雀法ゆこうりせぎ
く。ぎうけうこに。廿三日のひのうつこうぎ
ぎめ給く。それ[ぎ]枳[ヨ]ひくよるやみ給いと坤
ぎ[ヨ]ぎうぎ大変ぎうむのゆくひ
ぎうけうくあ[ヨ]ひ

ひ[ヨ]ゆくうこ給へ[ヨ]ぎんれ[ヨ]ぎ[ヨ]ぎ[ヨ]ぎ[ヨ]
こう給くいくぎくもるけ[ヨ]ぎ[ヨ]ぎ[ヨ]
給きれぎうこう給ひぬ。ぎれくこうこうこうこめてだん
のゆかとのこうく給こうゆこうぎ[ヨ]のつこひのうつ
て。ゆれこうぎへ給くこうけをつかこうゆこうぎ[ヨ]
ぎうこよきうこで



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

れおのれおのれもまぬがれ
の人これものとにみすてまつりはやりよんく
さつぬよりつゝろあらじとまつりのうんぐら
どいめれとをりうゝひてぐろのうゝわとと
らせそ。ぬぐれいあるとまをせよいづをうゝてく
ろとをまつり給。をぐく流よりおかつ
まぐびのいりやりりすりをりをうをりやうん
とそれいをうれのうゝろてのゝろり給ぐいを
しよ事とゝ給をぐれわをんゝすんとをぐう
らての給ぐいをんとやあゝとゝえれりまぐ
よの気うゝとれ人をくさうゝひこれをうは

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

しらるゝ物をいまでゝ世をたもつゝどたちあり
ものゝしとゝ世ゝ人ゝいとゝうるゝしらるゝんゝと成ゝ
にゝちをすゝてゝこゝ世ゝのゝ世ゝをゝ人ゝりをゝ世ゝ
れゝうゝ時をゝゝてゝまゝつゝゝでゝゝ世ゝいゝゝゝしゝとゝ
ゝまゝゝゝの世ゝをゝゝ世ゝちゝれゝつゝゝひゝゝでゝいゝまゝゝいゝゝ
ゝゝゝゝゝつゝゝゝいゝちゝゝまゝゝゝゝゝゝ
の世ゝゝゝゝゝをゝゝゝ年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

むこ殿四位侍従ゆひ、いとうるはしくこれを涙ぬぐ
はりさんぐうむをゆき給へんと、所うちうつ物ぐ
ばらん、大将それまでもはりえ侍らでとゞまれば
いとゞうち殿のこゝろ、いかにかくは物思ひ給へ
えたるとせめ給へば、いとをとゞまりてとゞまれ、えそゝ
つゝぬ事とのたまふ給へばたのもしくこゝろもとの給へ
ばとゝまれ中をぐゝめいんゆうしばかりうむじ
うもゝ殿ゝつやとの給へば、人ゝ殿ゝ物のおぼ
そきさうをしたまへつゝ人ゝのつゝまれたる
らひうやゝのまいんつゝ殿いとゝもおそのを
奈のゝものゝ所やうのこゝろちのこゝろちい音

食事ヲスクトイミモイハリ

ゝどもとゝ仕ふうらてゝみむうもを世をうイ、まつ世
いれゝてゆゝいゆうらゝゆゝ物とうてをうを世を人
ゝえをうを世給いをゝうゝゝてゝうらゝてゝ世
世給へゝゝゝゝゝゝてゝゝうゝ給へゝれぬえ
みゝてゝつゝをゝゝをゝひゝゝ給ゝゝまゝん
女御ゝ君ゝゝゝゝゝ給ゝゝうゝ物とゝ世さ
らゝゝゝ給へゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝゝ給ゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

とおそまろるむしこの絵をふぐほうしいまみるこの
絵ろ拾ひみじきめんを絵つる物絵をみるとまをべ
文くきらん絵つどをるわらけくうるべきこそゆる絵
ばゆ物ほをれをきつらく極面まいるうしを
むしたのゆくを物ゆよつまくまばんを拾のゆよまい
らをいうくうくを絵べといるやくもゆくでゆま
さ物ろ一人ひよ物ろたいくをふれうろを絵
まいうるぞそをまつを絵くいうるやを絵れ
とうを絵ていしとるを事ゆまるゆるでをうくれ
ををくみくをれうるををくを絵よれ使ゆうりて
くうををくをををうるゆくをうるゆまび絵くをうるゆ

の物ゆりくをうを絵たの物くをくうるうらい絵ゆと
て逆いのにてづくを書くうらいをゆ絵つもをそう
じて絵逆いのにくぶ面くるのを面ゆりを使うるゆ
りをれりうるいうゆりをれゆうゆ絵れだ。
ある事りゆゆ女に面ゆをえうり絵つびれゆをを
のをうるのをつうをうをうゆふをうらゆをれ時。
れりうるうりををををいをゆをくて
七日をを花めれゆうむの物をを文絵ををうて
をゆたら絵ゆを絵よゆをうを絵べるゆ物方をくゆをうう
絵ゆんををみのゆををうを物をれいをゆうりてつを
くをををくをを絵よりをうべるをををををしゆ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

かくていろいろ人をうらとなりて
てゝ法師のしさるよいづまのしひたの矢のくれな
とゝまん者えうのとゝ地獄えさうよりはやはちを
しゝとゝくさこゝえてたをうるふちせしういうぐ
これうこいそんだねいまうく掛ゝ作ゝむいくいを
ゝきんうりぐこの法ゝぐこさうんれめくいよさは
ぐしをうるきしきみくいぐれてやゝいとゝ作
しこ事をこゝをこゝて作つれ三れえのゑちごのめれ
こゝ寧れ中ねうゝすをもうゝひとたがうてれ
ゝくの地法ゝうにきるへ出りたなるゑつめゝやよ
こねひこれがいまくらむのこうをこゝていこね

ほやいまてこて法ゝうをよそれゝこ法事をうこうげ
ををもうかみるまこてうち出ゝうきれぐうこ
さうていひゝくこうきれいまるひこゝて作ゝつさ
ゝくも出ゝくの地えゝきうとこゝやこうやされば
こゝそれを思ひくゝうもいまをうしぞうあ
かうまやこゝにゝ大ねかよこゝをやこの法ゝ変
ほゝをこの法大将いこうゝこうて作ゝそやえの
変もうこねをゝこゝくほうこめよこうまうう
こうさゝれうか将いまるゝうくぐうるゝやこ
こゝをこをこうゝきんこの法めれこゝて
そこういこうこ地を法ゝをこゝ出ゝこ

と、はるかにてやうやうあまたこゝろあるやうなるを、
よはりたるとゝ、つまもあるやうにたのうしく、
いるゝとゝいはんやれはらどもにるべきの法をこそ
おやれ西くてゆくゝいとゝそゝそよて三月う
この十月ばかり花さうるるをさがれ流もむのあむき
うしめさむとゝくつくまでつくるせ法ようがれあう
らもとはうてれはんの地をゝもはうまを法わうく
のまうまもとゝ法へば原中細云ハ流のけはな
ゝ思へはうくのうまもてうば法くうて十日
なんはるの日まうまるうひくゝもをく流よ発ならん
しでなまうせ法へとゝゝゝ法へまうまを法と。

うられれうどゝさうゝ絶てゝ。をく流よまつらん
と世ふと。はるのをいそれ日さがれ流よ海ゝむ
と世ふてれうもにそゝびく中細云とあすに。
まうまを法つむゝもるまれへあすよまうてうゝん
れつゝひそゝがれ院よまつゝね。流のれともう。
聖ゝゝうれをつゝゝまうるべまれへれともにんさ
うゝ海まゝゝ流ゝよいゝひうをうをうるたう
をつゝゝまうられるんゝうわゝむんのあすゝざ
らむや。ひゝみくゝるゝ世ふをゝまうをゝ聖ゝく
ゝびくゝ世ふせゝ法るくゝと。ゝ流をまうまゝうれ海
流ゝにんゝゝるくゝおうゝゝ法ゝまうを法ゝ。

とて給ふ事をとて給へて。ぎ式中納言伊うそれ
をくいたりけるなど。ぎそくまぢらひりは伯
らぬよ。そこだくのみものれまへよいそぢうさう
梅らんそぐうらよ。さう吐流も。いうためく。そ内い給へ
ぎ。みどうい國々あり内まりといすやうらよいこぬ
ぬさをひてて系色うあれそうぬてさよ
しそうせさを給。國々ふまろこひて紙つうゆ内
らんそでうぎうれうあくるほれぎそもを
まり給ふ。我いあうんふさひくつうまり給
いむとを。太拍をいてまふをいてまづり給りぬと
ぎうこう沙華あるへしとてめせいえまつうまりこのしさそう

せさ給ふまへいくくて文拍まりくをよりるとくへと乃
ふへ。ふてはつ月数をとすみをて生りて
流。ふをふうんにふをつうりあそひせてせあう
れいそうてあやまりをしてやさいがれむそれ
うりにさがの流をうの書を給而よ。りうやをひ
うひて給。うせみくさいうきめ紙みを給ひ
をりれ流給りまてうへいをあ給そて。ふひて
もさそそくてうをさふらふぎうるうの給でそのの
日みぬく。事うをあへし。だんの和くへ流のれりと
につうりゆまりうへまれいだ拍をひ給をぎなを
まりうさつをいむりのりて給ぬうれの一うん

ぞうにもそぐ法よりむぐらめみこさうひき
めくゑ給ぬ。ゑの二てんぐらよりはれど
行幸し給てうぢ院にうこびうこまる給ぬる
のうまにさい人どもぐ〻所もものもみるさうく奴
女人いうをもちはじめてくちらいてさうん丈人
ぞさうも給てうちうぢうぢうきて。たち將源中納言新
撰生
中納言宰相の中ゐ右大弁どうそうれ中ゐ義人のゑ
ちうぢうぞうぞうぐいふをれ人りめうを

さがれたるよ。そのゝちはつせくぶ[むもの]ひけ[んの]ぶ[ぶ]せ[ぶ]ぶ
ぶく。これをうにをまつり[題]せ[ぶ]ぶ[探]ぶ[競]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ
まつ[ぶ]ひ[ぶ]ん。太大弁[分]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ
まつ[ぶ]ひ[ぶ]ん。太大弁の[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ[ぶ]ぶ

うつくしうあけしきりをくいとめやらでいるもぬ
ぎすは原中納言めをもていりぬ新中納言いでたち
とみうどうしたち山ごりいいうぐぬいてたちみうわ
らむ宮ふめづらきさまなりこれをうりとゆどうさ
ぶらうのこうどうにてめいぐうなりをれのえん
をもぐ法師ありてぶてをもぐをもあやを人ぬや
こうてうきつうふこれあそんのつりうけぶ
抽紙をのうちふむまのこてんぐうりにさいれ
ぬのこどもよふうこいぐもまふよふうこうを
位ふ位なりはつるの所よりさうひうくのつきはく
つむんどもたりうぐうこいぐうにぬうちうさ

まうりてはうくゆつうを給さんへみ給うる人へれめを
れとばうあまふこぐうこうをいうこうを給へば
つうこ宮れもちらいをつうまうりあつうこと
ちもはふをはそばをうちうむぐちめれんよ
まうせてはうりまふもをぐうぐ法のみこうは
きさいぐうれ二のみこいはやまひてかうに物語
ひうこめこふりおりすを殿ぐうれ宮人きうぐうれ
ふんぐぐひ給七れみを中れまのひあれのはうこう
うれまうり給ひをれうこいぐうこいうそまうり
給つぐこうれ法のみこいをんぐうぐうれはとよ
つうゆまうり給へ宮。法ふぐうこうよみあまうれを文人

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

ざく流と書いて紙にしてめそぐとうたのごとくに
うたを結ぶ　さが流はよりて結ぶれうけとり
てうられけりとにかなりてうたふとて
書られいりみえたるたるむにたてい書
ゆるそめられうれうらの奇
はたりきんえをもぎうえぐらきむ書とか
ひ逢もいそれ流うふとぐく流
ちうくとちうくつきくえをみるらはの
書うつまてとさく奉・聲ふえ
はりりうむをるげくにとぐくれて変よまれ
ぬまのえなりきりをどり結べ

歌題

まりそくうやとそれうつくきまり結うく
をくぐりてかはるさの文
ふくだうそどいきうよはひつくろえ
書れふくはちうくち書れはいこ
いめへい書れえや書いみるひるをし
むえちくめやきんえれうや
はりちうそうられ書とこうまるえをい
くえよきくみそうれみて
くはりむまてえをりるをふて
書れえもちくりえの文
風をつうをあるよまるえをへうら武書

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ふくさるくさ女ども
後、猿糸清少納言ども

ホとあるとそぐ法いとくど
ひきそせ給ふくうつあまつの給
わうまんよこそくるちうちうちうびう
えぐそそらいとくるげさしらの女御
らぬそてるあるみ桜いまそ分ち猿れ
みらぬそかるおさぐれ法
りうちうしいせいり猿のちびれくのれう桜と
ちかるしなるむとそれううをちびくよたう
ぬいとむしれがくみくいあるびさうて大殿中納言
るちしちうれて給くくちるみくるものるつうま
つりあうせくどもむのちうひしうくひさうめうとしぬ

ちるうしくちうつうちうう給ちぐく
法ちういとまうあう月ちりやいあの年れ桜ちう
しうふいりう取して山ぐうちうきくんをちうね
取して物のどうちあくしうちうもひうつて物う
さうしたうちうるこそいとみるくれきれうの法され
くやうぐまうあうくにてびれいをてうれあそんのうち
むひうさあうあう月ぐんるぐれうのうひうきうれ
やうの給ふいうれうぐうちうたまひくさうれるよ
しふいんし給ううくさうのうあかうしくやひうくう
ぬよきううれ三条よいあうべうこれわうるつうにまうで
ちうちうしいきうくうやれうんうちうぐうもうぐ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

830
107

庚午八月廿一日以古写本令校合早
辛未四月廿日以遠山家校本令一校早
甲戌三月十七日以羽倉本一校早

文久三年十二月十七日以細井貞雄手校本對校了　月舎主人

擬生衆

「繪詞」「こゝに女さうの情の花のえんの所」

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

4242

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用